
第七十一次世界植物大戦

台風X号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第七十一次世界植物大戦

【Nコード】

N79720

【作者名】

台風X号

【あらすじ】

東方植物戦争記から120年の歳月がたった。今宵新たな戦争が幕を開ける。season1は、20話。season2は、23話。finalseasonは、18話。となります。

第一話 エイリアンの侵略

植物界は、更に発展をしていた。

「大佐殿、何かお呼びですか？」

トウダイグサ・スカーレット大佐は、突然コミカンソウ兵長を呼び出した。

「少し気になるところがある。人間界のイギリスと言う国の畑にこんなのがあった。」

「ミステリーサークル暗号文章ですか？」

「ああ、キク科の一人カントウタンポポ伍長によれば、デラインヴェイド地球侵略の準備を開始するという警告らしい。」

コミカンソウ兵長とナガエコミカンソウ四等兵、オオニシキソウ伍長はイギリスで調査をしていた。

「伍長殿、何か見つかりましたか？」

「すまない、きちんと探している最中だ。エイリアン地球外生物の行動が分かる物は落ちていてもおかしくないのにな。」

その時、彼らの背後からミサイルが発射された。

「しまった！エイリアン地球外生物がそこにいたとは。錦爆 全ての発光光線」

オオニシキソウ伍長の弾幕が、エイリアンの一人にあたり、エイリアンは血を吐いて死亡した。

「貴様等、俺の仲間を殺してやる。」

「殺されるのは、どつちかと思うけどな・・・」

コミカンソウ兵長は、スペルカードを取り出してトラップ弾幕を作った。

「さあ、何処へ行っても地獄のトラップ弾幕だ！」

「ばかばかしい奴、簡単に抜けられる・・・ギャー！」

「どうした？」

「俺の左足が吹っ飛んだ！」

「うつ・・・貴様、俺の仲間に酷い目にあわしやがって、このライトセイバーで斬り裂いてやる。おらあああああ！」

コミカンソウ兵長は、戦略の腕がよいためトラップ弾幕を自分の手前に置いてあることをエイリアンが知るわけがなかった。

「ぐわあー！俺の左腕とライトセイバーが！」

ナガエコミカンソウ四等兵は、ライトセイバーを見てにやりとした表情を見せた。

「やめろ！そのライトセイバーで殺すのは・・・」

ナガエコミカンソウ四等兵は、ライトセイバーをエイリアンの右手に刺した。

「誰が殺そうとした。お前を拘束しなければならないからな。」

オオニシキソウ伍長は、トウダイグサ・スカーレット大佐に拘束したエイリアンを渡した。

第七十一次世界植物大戦 の新テーマ曲集

p e a c e o f U ・ N O w e n

苦しみが炎を助けた

エイリアン退治！

秩序から混乱へ

ミステリーサークル

スペルカード発動！

敵を拘束

第一話 エイリアンの侵略（後書き）

次回 第二話 新たな戦争。お楽しみに

第二話 新たなる戦争（前書き）

ついに植物たちは、宇宙戦争へ向けて戦闘用意を始める。

第二話 新たなる戦争

オオニシキソウ伍長は、トウダイグサ・スカーレット大佐に拘束したエイリアンを渡した。

其のエイリアンは、口を閉ざすが次第に事の緊急事態を教えた。

「奴等が攻めてくる。そのための警告だ。」

トウダイグサ・スカーレット大佐は、どうやらエイリアンから恐ろしい相手の襲来を聞いた。

そのため、タカトウダイ中佐は、ライトセイバーを見て何かを考えていた。

「大佐殿、自らの能力を封じられる可能性もあります。如何なさいますか？」

「植物たち全員にライトセイバーを持たしておくというのはどうだろうかバラ大将？」

「悪くはないアイディアだ。みんなに持たしておかなければ、今後の闘いが不利になる。」

賛成多数という結果になった。

トウダイグサ・スカーレット大佐は、次は植物界のある場所でUFOらしきものを見かけたという目撃情報を聞いた。

今回は、タカトウダイ中佐、イワタイゲキ上等兵、オトギリバニシキソウ参謀兵長が他の植物とともに動いた。

UFOから出てきたのは、エイリアンだがかなり危険なタイプであった。

ライトセイバーを全員が構えた。

第二話登場のサウンドトラック

事情聴取 } alien of dictionary }

最悪の敵の警戒

C r u e l D e c i s i o n

闘いの予感第一楽章

第二話 新たなる戦争（後書き）

次回 第三話 種族G K G L A D。ゲッラド お楽しみに

第三話 種族G K G L A D（ゲッラド）（前書き）

地球に攻めてきた、エイリアン集団。

第三話 種族G K G L A D（ゲッラド）

種族G K G L A Dというエイリアンがいた。

彼らは、2本の腕を伸ばすことができ、殴られると100m近く吹っ飛ぶ。

即死か、致命傷を負う確率も高い。

タカトウダイ中佐は、マラカイト・グリーンのライトセイバーを振って警告した。

「ここから先は、足を踏み入れるな！入れたら、我々が容赦しない。」

イワタイゲキ上等兵は、サックス・ブルーのライトセイバー。

オトギリバニシキソウ参謀兵長は、サンライトのライトセイバーを持った。

G K G L A Dは、腕伸ばして、拳で三人をつぶそうとしていた。

タカトウダイ中佐は、炎で、拳を炒った。

熱くあわてているG K G L A Dは、二人の攻撃を受けた。

イワタイゲキとオトギリバニシキソウは、ライトセイバーを見ていた。

「こんな感じで、斬れるとは、すごいな。」

G K G L A Dの乗っていた宇宙船を、タカトウダイが溶岩で溶かした。

「どうやら、反物質のエネルギーだけは、溶かさないのでおいた。これが重要な役割を持っているからな。」

トウダイグサ・スカーレット大佐は、地球の裏側に5機の選管が接近していることを見つけた。

第三話登場のサウンドトラック

警告

S t r i p e d

Y o u s w i n g b l a d e d a n c e l i g h t

第三話 種族G K G L A D（ゲッラド）（後書き）

次回 第四話 恐ろしや！極悪エイリアンQ O P X X。カップクス お楽しみに！

第四話 恐ろしや！極悪エイリアンQOPXX（前書き）

QOPXXが現れる中、植物連合軍に裏帳場が発生する。

第四話 恐ろしや！極悪エイリアンQOPXX

その5隻の戦艦が接近していた。

トウダイグサ・スカーレット大佐は、ツゲ中佐とパンダ少佐とホバ准将とコミカンソウ兵長（のちに中佐）は、見ていた。

「これは、QOPXXの戦艦五隻です。」

「我々には、来てほしくないエイリアン集団であり、反物質エネルギーを我々は、試験段階をやっとクリアしたばかりで、一度戦闘機で実験しなければならぬ。」

「このエイリアン、地球を滅ぼしに来るだけでなく、何かを企んでいるとしたらどうでしょうか？」

「それが考えられるな。我々の力でも4隻ぐらいしか壊せないだろう。」

しかし、ボタン中將は、嫌な予感がすることが発生することを知っていた。

アサギスイセン参謀長は、裏帳場の臭いが漂っているように感じた。

この状態をどうやって回避していくのか。

第四話登場のサウンドトラック

QOPXX

第四話 恐ろしや！極悪エイリアンQOPXX（後書き）

次回 第五話 裏帳場発生と襲撃。お楽しみに！

第五話 裏帳場と襲撃（前書き）

突然発生した裏帳場。植物連合軍の正義がついに暴かれる。

第五話 裏帳場と襲撃

「裏帳場の可能性がありますよ。」

コニシキソウが、トウダイグサ・スカーレット大佐にそう伝えた。

「それは、あり得ないと思うが。」

「でもですよ。あの四隻の船。QOPXXの船ではないんですよ。」

「それは、意外だな。どのエイリアンから更新が取れたんだ？」

「我々と同じ植物です。種族名は、ウエタックWAE TAWQです。侵略レベル1なので安全です。」

「しかし、なぜ彼らを危険人物にされたのだろう。」

「裏帳場があり得ると思います。トウダイグサ科の監視体制が、解除されたのもそれによる影響だと思われます。」

「それを外したのは？」

「名前がよくわからない植物のようです。科の名前は、デュモククロソウDY OUM ONKKLOSOUという名前です。」

「変な感じがする。もしかしたら、黒幕がそいつらかもしれない。」

第五話のサウンドトラック

裏工作

悪影響

ウタガイ

第五話 裏帳場と襲撃（後書き）

次回 第六話 内部の全体図。お楽しみに！

第六話 内部の全体図

黒幕の可能性が出てきた。

トウダイグサ・スカーレット大佐は、ダューモンクロソウ科たちを呼び出した。

「君たちが、計画変更した疑いがある。」

「そんなことはありません。あのエイリアンは危険な存在でありま
す。機械の故障ですよ。信じてください！」

タカトウダイ中佐は、壁を叩いてダューモンクロソウ科達に真実の
罵声をかけた。

「ウエタツクは、危険エイリアンでもなかった。それに地球を見に
来た観光客だということだ。」

ダューモンクロソウ科の隊長であるダューモンクロソウは、トウダ
イグサ・スカーレット大佐の左ほおを殴った。

「平和の欲望に落ちた堕天使め！」

トウダイグサ・スカーレット大佐は、にやりとした表情をした。

「戦争の欲望に落ちた者は、あなたなのです。私は、大佐であり、
この連合軍を作った責任者であり、地球を侵略するエイリアンを一
人も逃さないというのが私流です。」

トウダイグサ・スカーレット大佐は、クラウソラスを右手に取りダ
ユーモンクロソウに向けた。

「トウダイグサ科達よ、この者たちを捕えよ！」

「了解！」

「クラウソラスの餌食にならなくてよかったね。」

トウダイグサ・スカーレット大佐は、ダユーモンクロソウの手首に
4次元手錠を掛けた。

第六話サウンドトラック

解明された鍵

真実の罵声

第六話 内部の全体図（後書き）

次回 第七話 R R T X 襲来！スベリヒユ科の勇猛果敢な作戦。お楽しみに！

小説OP主題歌「纏われて百年戦争」 何が風だ、声殺す。に収録

小説ED主題歌「鮮血戦争終了ノ変」 NOに収録。

第七話 R R T X襲来！スベリヒユ科の勇猛果敢な作戦

騒動終了と同時に、安心のできない状況が続いた。

「地球から六万キロメートル離れたところに宇宙船があります。」

「解析の結果、宇宙の中でも相当強いと言われる種族 R R T X という船です。」

「大佐殿、いかがなさいますか。」

トウダイグサ・スカーレット大佐は少々困っていた。

「スベリヒユ科の軍に伝えてくれ。」

「了解！」

スベリヒユ科の軍は、攻撃態勢に入る。宇宙戦闘機に乗りこんだ。

「ここから先は、私の指示に従い動くぞ。」

「イエッサー、大尉殿！」

スベリヒユ科の軍 400 機が R R T X に立ち向かった。

敵の船は、一隻だが惑星を支配できるぐらいの力がある。

400 機のスベリヒユ科は、敵の船に 4000 キロメートル近付いたところでストップした。

「いいか、プラン03363迎撃作戦に移行する。」

「了解！」

スベリヒユ大尉は、戦闘機を自動操縦に切り替えた。

RRTXの船に乗っている船長はの名は「グラ・ヴスル」。

「スベリヒユ科の戦闘機が迎撃開始し始めました。400機もいます。」

「ふん、糞植物にはようはない撃てー！」

RRTXの船から重力砲が撃たれた。

「スベリヒユ大尉重力砲が来ます。」

「心配するな、攻撃だ！」

スベリヒユの戦闘機が一斉に重力弾に攻撃し続けた。

400機の力が強いのか、スベリヒユ科の勝利であった。

「何っ！」

スベリヒユ大尉は、戦闘機から降りて、400人の仲間と船に乗り込んだ。

「しまった！くそ、雑魚どもを倒せ！」

「了解！」

スベリヒユ大尉は、右手にダークブルーのライトセーバーを持っていた。

「大尉殿、突撃の合図をください。」

「分かった。5、4、3、2、1、0。出陣開始！」

「うおおおおお！」

RRTXは、最強の船を持っていても敵が弱かった。

スベリヒユ大尉は高速移動で敵を討伐していった。

そしてボスのグラ・ヴスルに勝負した。

結果、船を壊すことができた。

「スベリヒユ大尉、戦いぶりが無茶をしていると思った。」

「作戦に無理はないと判断したうえでの戦いであつた。」

第七話のサウンドトラック

闘いの予感第二楽章

Striped

勇者の稲妻

出陣開始！

第七話 RRTX襲来！スベリヒユ科の勇猛果敢な作戦（後書き）

次回 第八話 迫りくる影、ロップバズクLP P A Z C。お楽しみに！

第八話 迫りくる影、LPPAZC

トウダイグサ・スカーレット大佐は、少し悩んでいた。

「火星から水を運ぶ作業を邪魔をする海賊がいるらしい。」

タカトウダイ中佐も深刻に話した。

「大佐殿、此の被害に関して30件。原因によるエイリアンがLP
P A Z C によるものであることが分かりました。」

「威嚇射撃をしても無駄な場合は、どうしますか。」

「オールキル強制排除しかない。ふうー」

トウダイグサ・スカーレット大佐はため息をついた後、今日の運搬
班である者たちとであった。

カントウタンポポとクロマツとツバキといっしょに行くことになっ
た。

「L P P A Z C は、私に任してくれないか。」

「トウダイグサ・スカーレット大佐の戦術があれば怖いものなしで
すね。」

トウダイグサ・スカーレット大佐は、L P P A Z C の警戒態勢にす
で気が付いていた。

「倒す気になってきたぞ。平和乱す者殺す。」

第八話のサウンドトラック

運搬の邪魔者〜LP P A Z C〜

第八話 迫りくる影、LPPAZC（後書き）

次回第九話壊せLPPAZCの船。お楽しみに
第二期で一番不調ってこの作品です。

第九話 壊せLPPAZCの船

トウダイグサ・スカーレット大佐は、ライトセイバーを既に右手に持っていた。

「魔剣クラウ・ソラス！」

ライトセイバーを解放した後に、クラウ・ソラスも手に取った。

「二刀流で決めるのか。流石はトウダイグサ科のボスことだつてある。」

LPPAZCは、トウダイグサ・スカーレット大佐達が来たことを知った。

「まずい敵衆だ。」

「撃ち殺せ！」

LPPAZCは、攻撃を始めた。

トウダイグサ・スカーレット大佐は、敵の行動を軽やかに避けてライトセイバーとクラウ・ソラスを相手にぶつけていた。

LPPAZCの行動を他の者たちも加わって大乱戦に展望した。

第九話 壊せLPPAZCの船（後書き）

次回第十話討伐完了！そして地球封鎖計画。お楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7972o/>

第七十一次世界植物大戦

2011年10月14日17時52分発行